

ワケ カタチには理由がある(93)

Shape follows Function & Taste

～立川飛行機 Ki-G4-I 陸軍試作戦闘機



立川飛行機が計画した、プル式とプッシャー式を合わせたタンデムエンジン形式の陸軍試作戦闘機です。木製の実物大模型まで制作されましたが、日本陸軍は(1)後部プロペラは乗員の脱出時に危険であること、(2)前後のエンジンに排気タービンを取り付けることは難しいこと、の2つを理由にして、計画は途中で放棄されました。(1)の中止理由については「基本設計の段階から明らかであった事実を理由とした突然の計画中止は、会社幹部も長谷川も納得のいかないことであった」(『幻の高高度戦闘機キ-94』長谷川龍雄(キ-94 主任設計者)監修、山崎明夫編著・潮書房/下線筆者) ようで、当時の日本陸軍の計画性の無さを感じます。一方、確かに窮屈な排気タービンの配置で、(2)の中止理由は納得します。また、後部気流が水平尾翼を叩く欠点のある、この構造は世界的にみても実用例は少なく、この機体も成功しなかったのではないかと思います。なお、同様にタンデムエンジン形式を採用したドイツ機の Do335 も大きいですが、本機はそれを超える大型機でした。

【模型について】

同スケールの Do335 と→



日本のウシモデル(USHI model)の 1/72 のレジンキットです。一部パーツが 3D プリンタで造形されている本キットは、とにかくパーツの合いが良く、感動しました。2つの排気タービンは、多少小さく感じたので、ハセガワの B-17 のパーツを使って、大型化しています。(中川裕幸 2023 年 12 月)